



Beyond KUSS , 2025 !!



卒業研究と卒業後のステージ

7 月 2 日(火)の卒業研究最終発表会、ごくろうさまでした。卒業研究(課題研究)、納得できるゴールを迎えることができたでしょうか。7 月 18 日(木)に六甲台講堂で発表する 11 回生の代表としてがんばってください。

生徒全員が卒業研究(課題研究)に取り組むのは、本校創立時からの教育活動の 1 つです。KP(Kobe ポート・インテリジェンス・プロジェクト)の集大成として卒業論文・卒業研究(課題研究)が位置づけられていました。現在は、KP=卒業研究(課題研究)になっています。本校卒業生の共通経験は KP=卒業研究(課題研究)です。先輩や後輩と KP ネットで話が盛り上がるかもしれませんね。

なぜ、本校は創立時から卒業論文・卒業研究(課題研究)を生徒全員に求めているのでしょうか。大きく 2 つの意味があります。1 つは、大学で学ぶ力・社会で活躍する力の基礎を構成するリサーチリテラシーを十分に身につけるためです。もう 1 つは、自身の興味・関心にもとづき、卒業論文・卒業研究(課題研究)に取り組むことにより、卒業後のステージを考える材料にして、大学進学 mismatches を回避するためです。

11 回生のみなさんはどうでしょうか。リサーチリテラシーを十分に身につけ、自身の興味・関心を最も高めることができる大学・学部・学科を選択してください。

「志望校」から「出願校」へ

1 週間前、蔵下克哉先生の「みらいを拓く出願に向けて」の講演に接し、どのような感想をもち、どのようなことを考えたでしょうか。これからの時期、みなさんが考えなければならないのは「志望校」ではなく「出願校」です。「志望校」は、進学したい、入学したい、大学・学部・学科です。「出願校」は、出願する、受験する、入学する、大学・学部・学科です。「志望校」と「出願校」は同じであるべきですが、みなさんはどうなるでしょうか。

保護者世代の大学受験時、20 世紀末と今の受験状況は大きく変わっています。18 歳人口が半分近くまで減少しています。しかし、四年制大学は増加しています。東京大学をはじめとする国立難関大学にも特別選抜(総合型・学校推薦型選抜)が行われています。私立大学入学者の過半数は一般選抜以外です。関学の一般選抜の合格最低ラインが進研模試偏差値 50 程度という実態を蔵下先生がお話しく下さいました。本校での追跡調査でも「K 値」40 台後半が合格最低ラインです。

今後さらに 18 歳人口の減少は進行し、10 年後の大学受験状況は、過去 30 年間で大きく超える変化が生じる可能性が報じられています。「出願校」を 20 世紀末の感覚で決めるようなことは大きな後悔・禍根を残す可能性もあります。しっかり判断してください。

とりわけ特別選抜への出願を考えている人は、三者面談より前に担任の先生に相談してください。特別選抜に出願するには覚悟が必要です。特別選抜に関するデータについては、次号で紹介する予定です。

『週刊東洋経済』臨時増刊号「本当に強い大学 2024」が今年も 6 月 24 日(月)に発売されました。すでに目にした人もいないかもしれません。その pp.26-29 に「10 年先の大学序列&入試難度」という記事があります。本当にこの記事のようになるのか、それとももっと大きな変化になるのか、10 年後にならないとわかりません。参考までに神戸大学は「難関国公立大」のあたりに位置する大学です。

<保護者の方々にも読んでいただきたい>

『Beyond KUSS , 2025 !』など進路課が発信する情報の一部を HP に掲載しています。

10 年先の大学序列&入試難度『週刊東洋経済』本当に強い大学 2024(0624 発売)

省略

この図は、『週刊東洋経済』が全国約 300 の塾・予備校を調査し、西田浩史氏(追手門学院大学客員教授 ルートマップマガジン社取締役)が執筆した記事を図示したものです。10 年後、社会がどんな風になっているかわかりません。自身が成長する受験となるよう、「志望力」・「出願力」を高め、基礎・基本を強化する夏にしましょう。体調管理に気を配り、3 週間後に始まる夏季休業を迎えてください。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS , 2025 !』など進路課が発信する情報の一部を HP に掲載しています。